

病院内で5Sを本格推進 医療現場の生産性と品質向上を目指す

富士重工業健康保険組合 太田記念病院

2年前から医療現場での5S活動を推進する太田記念病院(群馬県太田市)。初年度は薬剤部、臨床検査部、事務部門が組織化して5S活動に取り組み、次年度からは看護部など他部門に拡大展開。医療現場において5Sが浸透し、その効果は多忙な医療業務の効率化にもつながっている。院内全域へ展開し、高品質医療の提供を目指す。佐藤吉壮院長と5S推進委員会の清水幸子看護部副部長、5S実践メンバーの平山啓朗氏(薬剤部)、山口登美江氏(臨床検査部)、大谷智恵氏(病棟看護師)にこれまでの取組みの内容と今後の展望について聞いた。

——本格的な5S活動に取り組まれたきっかけは。

佐藤 当院は旧病院(総合太田病院)の老朽化、耐震不足、スペース不足などの理由から2012年に新



太田記念病院のみなさん(2列目1番右が薬剤部の平山啓朗氏、1列目1番右が臨床検査部の山口登美江氏、1列目中央が病棟看護師の大谷智恵氏)

築移転しました。救命救急センターもっており、急性期型病院としての役割を果たしています。入院、外来、救急などすべての医療業務を行うに当たり、いかに効率良く、質の高い医療サービスを患者に提供できるかがわれわれの使命です。そこで、平成25年度からの3カ年中期経営計画で「医療の質の向上」を目標に掲げ、「クオリティアップ」をキーワードに決めました。この目標の達成とやりがいのある職場づくりを目指すには5Sができてこそ実現できると考え、取り組み始めました。

——医療業界では5Sに対する知識や理解は浸透していたのですか。

佐藤 人の命に関わる医療現場において安全や感染対策という観点

から5Sは不可欠という認識はありました。しかし実際に機材や作業スペースのレイアウト変更をどのように進めたらよいかわからず、体系立てた取組みまでは着手できていませんでした。今回、病院をあげて本格的な5S活動を始めるに当たり、ジェムコ日本経営のコンサルタントから指導を受けながら進めることにしました。

——5S活動はどのように進めましたか。

佐藤 まずは整理整頓を徹底して推進することから始めました。そこで生まれた空いたスペースを有効活用し、業務効率化を目指しました。また、救急医療では使用する薬剤が予測できないため在庫を多く抱えてしまったり、カテーテ

会社概要

会社名：富士重工業健康保険組合 太田記念病院
所在地：〒373-8585 群馬県太田市大島町455-1
開院：2012年
従業員数：872人
事業内容：医療サービス

ルなど高価な医療器具が多く存在します。5Sを進めた結果、在庫が大幅に削減されたことは期待以上の効果でした。

清水 5S推進委員会や事務局など組織体制を整え、初年度は効果が狙える部署として薬剤部、臨床検査部、事務の3部門を選び、実践しました。5Sの知識を深めるために勉強会やオリエンテーションなどを開催。2年目となる今年にはスタッフ数が多い病棟看護部まで範囲を広げて活動しています。——5Sを推進する上で苦労されたことは。

清水 推進委員会から活動全体を見ていると、活動に対して協力的な人とそうでない人の温度差があるように感じました。全員参加を進めるのが苦労した点です。特に看護部はスタッフが多く、その上交代勤務制のため全員への周知徹底が難しい部署です。そこで、リーダーを選し、チームによる少人数制にすることでみんなが取り

整理整頓の徹底で在庫削減 コスト意識も生まれる

組みやすいように工夫しました。

——初年度のモデル部署である薬剤部、臨床検査部の活動内容についてお聞かせください。

平山 薬剤部ではまず、薬品棚の整理整頓に着手しました。在庫過多の要因となっていた倉庫と調剤棚の2カ所にあった保管場所を統一。頻繁に出庫する薬品と動きの少ない薬品を仕分けして二重在庫を解消した結果、在庫が大幅に削減しました。効果金額は約300万円に相当します。また、約1,500種類もの薬品の保管ルールを徹底。今まではなんとなく保管し、置き方も乱雑でしたが、五十音順に配列しました。薬品名はカタカナ表記の似たような、紛らわしい名前が多くあります。薬剤師は薬品の

パッケージやロゴで認識していることが多いので、保管棚の分類表記にはパッケージのロゴの部分を貼付けてわかりやすくしました。こうしたことで探すムダが省け、投薬ミス予防にもつながりました。

さらに作業効率化を狙ったレイアウト変更も実行。自動車製造では当たり前になっている部品の準備から組立までの手際良い作業風景からヒントを得て、移動ロスがない動線を考えました。その結果、作業時間を30分以上短縮できました。

山口 臨床検査部は採血などで検体採取し、組織検査を行う部署です。検査装置など大きな機材が多く大幅なレイアウト改善は難しかったため、整理整頓やモノの置き場の管理を徹底しました。2年前の引っ越しの際に何をどこにしまったのかモノを探すことが多く、とりあえず置くことが習慣化していました。資材倉庫を整頓し、高価な検査資材に対するコスト意識を高められるようになりました。



佐藤吉社院長



5S推進委員会の清水幸子看護部副部長



レイアウト改善後の薬剤部



五十音順に配列しパッケージのラベルで区分した薬品保管棚



整理整頓を徹底した臨床検査部の保管棚